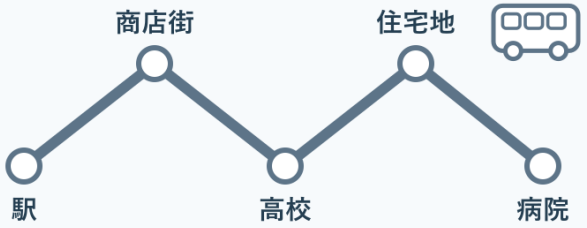
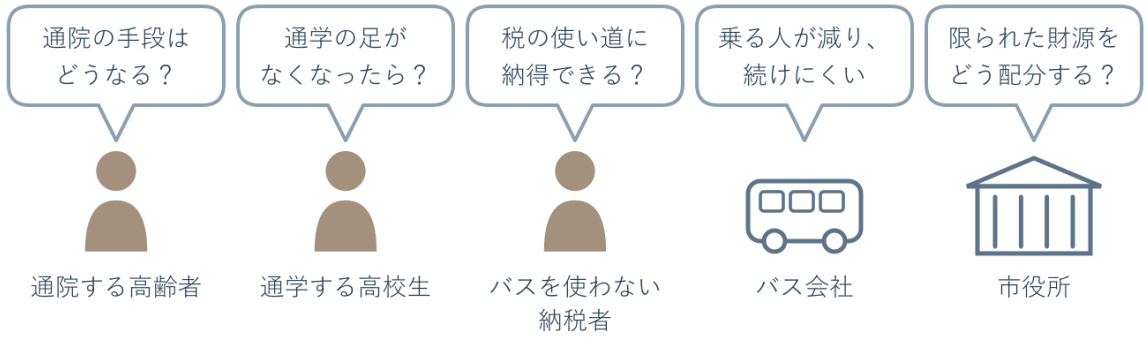
赤字のバス路線を税で支えるべきか

どんな立場の声があり、どんな見方と情報で判断すればよいか

① 架空のＡ市の赤字のバス路線と、立場の違う人の声（例）



利用者が減り、赤字が続く路線（模式）



② 税で支える理由の例

- 車を運転できない人の、通院や通学の手段を守る
- バスがなくなると、出かける人が減り、町の活気が減る
- 市場の働きだけでは続けにくいサービスを、財政で支える

③ 税で支えることへの疑問の例

- 利用する人が少ない路線に、多くの税を使ってよいか
- 限られた財源が、福祉や学校などほかの事業に回りにくい
- 財政の負担がふくらむと、将来の世代に回る

④ 行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方

路線を残す場合と残さない場合で、関わる人全体の
幸福がどれだけ増え、どれだけ減るかを比べて考える

⑤ 行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方

結果だけでなく、移動の手段を失う人や負担を求められる
人への扱いが公正か、果たすべき義務は何かを考える

⑥ 判断のために集める情報の例

利用者の数の移り変わり
市の財政の状況
同じくらいの規模の市の事例
税の負担と福祉の国際比較

※ 架空のＡ市の模式図。人物・声・理由は例で、数値は入れていない。どちらがよいかは示していない。